

赤十字NOW

千葉 | September 2011 Vol. 20

▶ 発行所 / 日本赤十字社千葉県支部 〒260-8509 千葉市中央区千葉港5-7 TEL 043-241-7531 FAX 043-248-6812



**復興への
願いを込めた
おもてなし**

**太巻き寿司
にがぶり**
—6月22日の
お食事会から—

3.11 未曾有の被害をもたらした東日本大震災。多くの悲しみが日本中を覆いました。震災から半年、少しずつですが、笑顔が戻り始めました。君津市赤十字奉仕団では、4月から福島県などから避難されてきた皆さんを温かく迎え、継続的に手作りお食事会を開催し、丹精込めたおもてなしをしています。「すべての人々のしあわせをねがい、陰の力となって、人人に奉仕する」という赤十字奉仕団員の信条を実践するお食事会では、たくさんの笑顔が溢れています。
(2面に詳細記事)

君津市広報キャラクター きみぴよん太巻き

CONTENTS September.2011 vol.20

2・3 イベントレポート

東日本大震災
・君津市赤十字奉仕団
地域で被災者支援 ～お食事会・演奏会～
・高校生による県内被災地ボランティア活動
(茂原高等学校)

夏休み子ども特集

・青少年赤十字国際交流/バングラデシュ派遣
・横芝光町小・中学生福祉体験学習会
～日本赤十字社千葉県支部義肢製作所～
・赤十字ジュニア・ライフセービング教室

4 ご報告

・日本赤十字社千葉県支部の
平成22年度事業報告・決算報告

5 イベント・講習会のご案内

・成田赤十字病院 公開健康講座
・赤十字講習会のご案内

6 news

・利根コカ・コーラボトリング(株)
赤十字支援+募金機能付 自動販売機
・柏献血ルームが移転オープンします
・好評発売中の赤十字商品

event report
東日本
大震災
part.1

復興への願いを込めたおもてなし ～君津市赤十字奉仕団主催お食事会～



▲配膳は流れ作業で文字通りレスキュー隊員が救いの手を



▲最後の仕上げは圧巻です



▲200人分の豚汁



▲たくさんの笑顔と「いただきます」



▲君津市消防音楽隊30人の演奏

君津市赤十字奉仕団(鎌田和子委員長)は、6月22日(水)、君津市小糸公民館を会場に、東日本大震災によって君津市内に避難された方々を招待し、お食事会を開催しました。

お食事会には、福島県等から同市公営住宅などに一時避難されている18世帯の34人の皆さんが参加し、奉仕団手作りのお食事を楽しみました。

前日から仕込んだ君津地元食材を使い、サプライズとして福島県郷土料理「味噌かんづら」や君津市広報キャラクター「きみびょん」の太巻き寿司が登場。「懐かしい味に感激」「とてもかわいくて食べられない」などの声を誘いました。

鎌田委員長は、「君津で出会ったのもご縁、君津で楽しんでいただければ」とお食事会を企画し、君津を良く知っていただくため、市内複数の会場を持ち回りで開催するなどの配慮をしました。

「お互いに連絡を取り合う機会になりました。」という声に、「人と人のつながり」のお手伝いが出来て良かった。喜んでいただくことで、団員の士気も更に上がりました。」と語る鎌田委員長。

この活動は多くの共感を呼び、当日は、君津市消防本部が全面的に協力し、参加者などのために、特製の豚汁を炊き出してくださいました。30度を超える猛暑の中、救援で福島県に派遣された隊員の皆さんなど、約20人が配膳などに汗を流しました。

圧巻は同消防音楽隊30人によるミニコンサート。楽器を握る手にも汗が見えた演奏は、「上を向いて歩こう」「負けないで」などのポピュラーな曲で構成され、時折涙を誘う場面もありました。

震災直後の4月から毎月継続することで、被災された方々の悲しみを癒し、たくさんの笑い声が溢れるおもてなしとなりました。

event report
東日本
大震災
part.2

高校生が県内被災地でのボランティア体験を報告

6月17日(金)、山武・長生・夷隅郡市で青少年赤十字(JRC)活動に取り組む高校生たちが集まり、東日本大震災の県内被災地などでボランティアを行った高校生メンバーによる体験報告会が開催されました。



▲「何かをしたいと思うだけでなく、実行することが大切」



▲メンバー同士で積極的な意見交換

報告を行ったのは、現地でボランティアとして活動した県立茂原高校の生徒代表5人。同校では、震災後の3月25日、生徒15人が津波被害の大きかった旭市飯岡地区でボランティア活動に参加。被災した和菓子店やみりん工場、時計店などの、浸水した家財の整理や屋内からの泥出し、清掃を行いました。報告した高校生の中には「自分たちの住む千葉県内にテレビで見ていた福島や岩手と同じ被害状況が広がっていることに驚いた」との驚きの声が聞かれました。また、「がれきと思って思い出の品を捨ててしまう心配もあるので、一つずつ家の人に聞いてから作業するよう心がけた」と、ボランティア活動中に住民の方々とのコミュニケーションを大切にしていたことも報告。自分の孫のテストの紙も思い出の品だから乾かしてほしいと頼まれたエピソードも紹介されました。

報告会ではまた、3月29日・31日に、同校の女子ソフトボール部員も加わって行った千葉県庁での救援物資の搬入・搬出ボランティアについても報告されました。初日だけで、

宮城県石巻市や岩手県盛岡市などの被災地へ向け、10トラック4台分の物資を搬出。あわせて県内の市町村からの救援物資の搬入も行いました。

参加した生徒は、短期間の間にも被災地で必要とされている物資に変化が見られ、被災者のニーズが時間とともに変わっていくことを実感。「被災された方が今何をしてほしいのか、本当は何を求めているのか、感じることが大切だと気づいた」と感想を述べました。

その後、会場に集まった茂原高校、松尾高校、大網高校、長生高校のJRCメンバー約60人は、同世代の仲間たちの体験報告を受け、自分たちができる災害ボランティアについて、メンバー相互に活発な意見交換・グループ討議を行いました。



▲県庁での救援物資の搬出ボランティアの様子

夏休み
子ども特集
part.1

素直な目で見たバングラデシュ 千葉県青少年赤十字国際交流派遣プログラム

この夏、日本赤十字社千葉県支部では、県内の青少年赤十字メンバー代表8人をバングラデシュ人民共和国に派遣しました。

気候はもちろん、生活習慣、文化の違いに戸惑いながらも、8人は真っ正面からバングラデシュの現実を直視し、貧困のため満足な教育を受けることが出来ない子供達への支援事業の現状を学習してきました。



▲学校では大歓迎 プレゼント攻めに戸惑う高校生メンバー



▲文具セット寄贈セレモニーなど 毎年5,000セットが贈られます

7月24日(日)から29日(金)の派遣に参加したのは、青少年赤十字スタディーセンター(リーダー研修)を終えた中学生4人と高校生4人です。

バングラデシュ赤新月社の青少年メンバーとの交流に備え、複数回に及ぶ事前研修で日本文化や生活習慣、青少年赤十字活動の紹介に関する学習を重ねた派遣団は、出発まで大忙しの毎日を送りました。

日本赤十字社では、2003年度からネパール、バングラデシュ、モンゴルのアジア3か国を対象に教育等支援を行ない、文具セット提供、学校への衛生設備・保健室設置や、保健衛生

に関する知識の普及を図ってきました。

当県では県内の青少年赤十字メンバーが行う1円玉募金から300,000円を充て、当支部からの2,500,000円と合わせて、バングラデシュ赤新月社の支援に取り組んできました。

1日に300kmに及ぶ悪路の移動に耐え、地方の学校で行われる文具セット寄贈式に臨んだ派遣団は、芸能人さながらの大歓迎に戸惑いながらも、県内メンバーの総意をしっかりと伝えることができました。

「日本と比べて圧倒的に物が不足している。反面、心は日本以上に豊かだ。物を大切にする気持ちは、私達が忘れがちなものだ。」

市立銚子高等学校2年の広谷裕佐君(16歳)は、率直な感想を寄せ、継続的な支援の必要性を訴えます。

この秋、派遣団一行は、千葉県青少年赤十字メンバーを対象とした帰国報告会で、自分達の素直な目で見たバングラデシュの現状と、教育等支援事業の成果を伝えることにしています。

夏休み
子ども特集
part.2

義足体験を通じて福祉の心を

義肢製作所が小・中学生福祉体験学習会に協力しました



▲調整中の脇本さん 念入りに行います



▲軽爽と歩く脇本さん リハビリ努力のたまもの



▶初めての義足体験は興味津々

日本赤十字社千葉県支部義肢製作所(小林恵司所長)は、8月9日(火)、横芝光町社会福祉協議会が主催する「小・中学生福祉体験学習会」に参加した小・中学生の訪問を受けました。

この学習会は、協議会が毎年の夏休み、地元の小・中学生からの参加申込みで開催しているもので、県内の福祉施設の見学や様々な福祉体験を通じて、思いやりの心を育むことを目的としています。

今回の学習会には、小学生20人、中学生6人の計26人が参加して、義足や義手、補装具などの見学とともに、義足利用者の日常生活など、「生の声」を聞くことで、義肢製作所が果たす役割などを理解しました。

19年前の交通事故で一命を取り留めたものの、両脚の膝

下から失った脇本富美子さん(64歳)に特別講師としてご協力いただいた学習プログラムでは、子供達からは次々と質問が寄せられました。

「義足は痛くないですか」「生活で困ったことはありませんか」という質問に、脇本さんは自身の経験を丁寧に語ってくださいました。

「若い頃は、スマートな長い足に憧れていました。義足となった今、ぜひたくは言いませんから、本当の自分の足が欲しいと思います。」と笑顔で語る脇本さん。

「今ある生命(いのち)で、楽しく一生懸命に生きて」というフレーズとエールが随所に盛り込まれた脇本さんの体験談に、子供達は真剣なまなざしを向けていました。

プログラムの終わりには、義足装着による歩行体験もあり、子供達は悪戦苦闘していました。

当支部の義肢製作所では、製作活動の傍ら年間1,300人を超える見学者や、十数校に及ぶ中学生職場体験などを受け入れ、福祉教育やキャリア教育に積極的に協力しています。

夏休み
子ども特集
part.3

ペットボトルも立派な浮き具に 赤十字ジュニア・ライフセービング教室



▲楽しいレスキューボード



▲ペットボトルを抱えてそと...



▲息もピッタリ 父子チーム



▲有意義な夏の思い出 全員でパチリ

7月24日(日)、日本赤十字社千葉県支部と千葉県赤十字安全水泳奉仕団は、千葉市稲毛海浜公園「いなげの浜」を会場に、今回で10回目となる赤十字ジュニア・ライフセービング教室を開催しました。

風もなく穏やかな夏の日、21人の親子が参加し、準備運動の後、2Lのペットボトルを利用して水に浮かぶ技術を習得したほか、衣服を着たまま落水した際の対処方法を体験し、水の事故から身を守る方法を真剣に学びました。水に慣れたところで、登場したのがレスキューボードとレスキューチューブ。

24人のスタッフが見守る中、子ども達は、徐々に体験を始めたところ、10分もすると「にわかライフセーバー」のようにレスキューボードを乗りこなしました。

「楽し過ぎてしょうがない」と思わず少年が叫びます。

お母さんと妹の3人で参加した山本 菜乃(よしの)さん(小学2年生)は、「レスキュー

チューブの体験が楽しかった。着衣泳体験は初めて。服を着たまま海に入ると、服が水を吸ってとても重く感じ怖くなった。水に落ちた時は、慌てないで静かに浮いていることが大切とわかった。」と感想を寄せました。

残念なことに、平成22年度水難発生件数において、千葉県は87件の全国ワースト1位となっています。

今後も当支部並びに赤十字奉仕団は更に連携して、水の事故防止啓発活動に取り組めます。

赤十字活動で支援へのお礼とご報告

日頃から県民の皆さまには赤十字の活動にご理解とご協力をいただきまして、誠にありがとうございます。
お陰様をもちまして、平成22年度、皆さまからお寄せいただいた活動資金は、合計で643,054,953円となりましたのでご報告いたします。
日本赤十字社千葉県支部では、活動資金をもとに赤十字の各種活動を実施することができました。

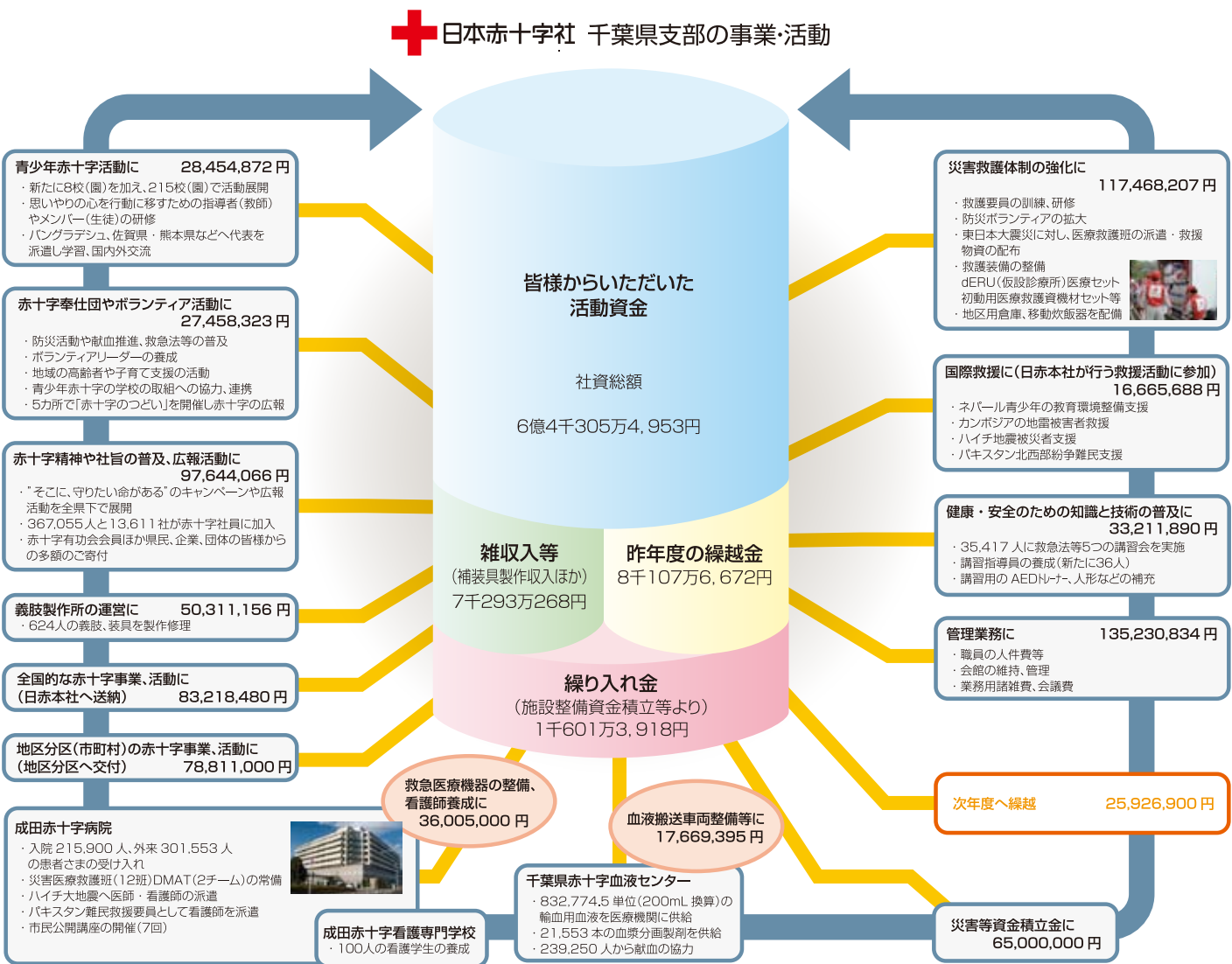
平成22年度日本赤十字社千葉県支部 一般会計歳入歳出決算のあらまし

歳入	総額	813,075,811円
歳出	総額	787,148,911円

歳入歳出の差引額25,926,900円は、平成23年度の前期運営資金(繰越金)として、有効に活用させていただきます。

歳入のあらまし	○活動資金総額	643,054,953円
	○施設整備資金積立等からの繰入金	16,013,918円
	○雑収入(補装具製作収入ほか)	72,930,268円
	○昨年度からの繰越金	81,076,672円
		813,075,811円

歳出のあらまし 千葉県支部の事業・活動として下図のとおり概要をご報告させていただきます。



イベント・講習会のご案内

成田赤十字病院 公開健康講座のご案内

成田赤十字病院では、それぞれの分野の専門医師が講師となる健康講座を開き、健康に関する知識や情報をご提供しています。

会場はいずれも、成田赤十字病院A棟8階講堂です。ご近所の方とお誘い合わせの上、お申込みください。

なお、講座は期日、会場、テーマなど変更させていただく場合がありますので、事前にお問い合わせいただければ幸いです。

●講座内容

期 日	テーマ	担当医師
11月24日(木) 14:00~15:30	子供の急病と対応 (定員100名)	第一小児科部長 角南 勝介 医師
平成24年1月25日(水) 14:00~15:30	くも膜下出血の予防と早期発見 (定員100名)	第一脳神経外科部長 中村 道夫 医師
平成24年2月24日(金) 14:00~15:30	血尿・蛋白尿と腎疾患 ～検診で尿異常を指摘されたら～ (定員100名)	腎臓内科部長 大橋 弘文 医師



申込み・お問い合わせ先

成田赤十字病院 社会課

公開健康講座係

Tel 0476-22-2311 (代表) 内線7502

※平日の 9:00 ~ 16:30

赤十字講習会のご案内

赤十字では、日常のとっさの手当や事故の予防に役立つ「救急法」「水上安全法」「雪上安全法」「幼児安全法」「健康生活支援講習」の5つの講習を行っています。講習会はどなたでもご参加いただけます。詳しいお申込み方法・最新の受付状況については、日本赤十字社千葉県支部ホームページ(<http://www.chiba.jrc.or.jp>)をご覧ください。



人気の講習会をご紹介します

●幼児安全法短期講習(パパ・ママのための救急法スクール)

乳幼児期に起こりやすい事故の予防と手当、心肺蘇生法とAEDの使い方を学びます。

日 程	主催・会場	受付状況
10月17日(月) 講習時間:13:30~16:00	日本赤十字社千葉県支部	受付中

※託児付(要予約):赤十字地域奉仕団員が託児を担当します

お子様お一人につき、保険料100円

※費用:教材費 50円 保険料 100円



●災害時高齢者生活支援講習

被災して避難所等で生活する高齢者を支援する際に役立つ知識や技術を学びます。

日 程	主催・会場	受付状況
11月10日(木) 講習時間:13:30~15:30	日本赤十字社千葉県支部	受付中
平成24年1月31日(火) 講習時間:10:00~12:00	日本赤十字社千葉県支部	受付中
平成24年2月9日(木) 講習時間:14:00~16:00	成田赤十字病院	受付中

※費用:教材費 50円 保険料 100円

その他にも、さまざまな講習会を開催しています。

講習会の詳しい内容・スケジュール等については、日本赤十字社千葉県支部ホームページ(<http://www.chiba.jrc.or.jp>)をご覧ください。



▲パパ・ママのための救急法スクール
異物除去の方法



▲おもちゃもたくさん 託児の様子

お申込み方法

往復はがきに必要な事項[①講習会名 ②講習会日程 ③会場名 ④郵便番号・住所 ⑤氏名(ふりがな) ⑥電話番号 ※携帯電話でも可 ⑦生年月日(年齢)]をご記入のうえ、各会場あてにお申し込みください。

申込み・お問い合わせ先

日本赤十字社千葉県支部 救護福祉課 健康安全係 〒260-8509 千葉市中央区千葉港 5-7 Tel 043-241-7531 (代表)

成田赤十字病院 社会課 社会係 〒286-8523 成田市飯田町 90-1

Tel 0476-22-2311 (代表)

千葉発

募金ができる自動販売機完成

～利根コカ・コーラボトリング(株)とのパートナーシップ～



▲左:日赤茨城県支部永見事務局長
中:マイケル・グームス利根コカ・コーラボトリング(株)代表取締役社長
右:日赤千葉県支部秋山事務局長

今後は、利根コカ・コーラボトリング(株)と協力し、同社の販売エリアである当県・茨城県・栃木県内への設置を目指すとしています。

自動販売機に寄せられました募金は、売上の一部の寄付金と併せ、今年9月30日までに東日本大震災義援金、以降を日本赤十字社が行う人道事業に活動資金として活用させていただきます。

設置についての照会先 ▶ 利根コカ・コーラボトリング株式会社 法人営業部 Tel 04-7123-1128 までお問い合わせください。

6月30日(木)、日本赤十字社千葉県支部と利根コカ・コーラボトリング株式会社は、千葉県赤十字会館において、「日本赤十字社活動支援・募金機能付自動販売機」の完成発表会を行いました。

これはスイスのジュネーブに本部を置く国際赤十字・赤新月社連盟(IFRC)と、ザ・コカ・コーラカンパニー(米国ジョージア州アトランタ)が、2011年1月に締結したグローバルパートナーシップの具体的な協働活動の一つとして実現したものです。

両社は、1917年以降、世界各地で発生する自然災害へ備え、それぞれが持つノウハウを相互に提供し合うことで、災害被災者の救援をはじめ、防災意識の高揚・啓発を地球規模で展開してきました。

完成した自動販売機には、10円と100円の募金専用ボタンが設けられ、利用者が募金できるしくみが採用されています。

飲料水購入後のお釣りを寄付できる機能を持ちまた、商品を購入せずに募金だけを行うことも可能となっています。

節電機能も搭載した販売機は、本体に赤十字ロゴをあしらひ、コカ・コーラブランドカラーと絶妙にマッチしたデザインです。



▲100円を入れて100円ボタンを押すと募金完了
「募金ありがとうございました」の音声がかかります。

森林をイメージした快適な献血 柏献血ルームが移転オープンします



▲▶イメージ図

この秋以降、千葉県赤十字血液センター柏献血ルーム(出張所)が、装いも新たに移転オープンします。柏献血ルームは、昭和62年5月に千葉県初の献血ルームとして開所以来、延べ43万人以上の皆さまに献血へのご協力をいただいております。

現在では、休日には混雑で少しお待ちいただくことも多く、また、将来的な輸血用血液需要に応えるための施設規模拡充を図るものです。

新しい献血ルームは、施設面積519.17㎡と従来の2倍以上の広さの中、献血用ベッドを4台増設(合計14台)し、皆さまにゆったりとくつろぎながら献血にご協力いただける空間をめざしています。



移転先は、JR柏駅東口ダブルデッキのエスカレーターを降りてすぐ、柏駅前通り商店街入口にある榎本ビルの5階、1階みずほ銀行が目印です。

移転オープン情報は、千葉県赤十字血液センターのホームページでご紹介させていただきます。引き続き、献血へのご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

<http://www.chiba.bc.jrc.or.jp/>

耳より情報!! 現在販売中の人気赤十字商品

クリアファイル&メモ帳 CroKuma®

人の気持ちを優しくしてくれて癒しの存在でもある“くま”。“CroKuma”(くろくま)は、“赤十字とみんなの気持ちをクロスするくま”として生まれました。

この“CroKuma”を可愛くあしらったクリアファイルとメモ帳が新登場。

クリアファイルは、透明素材なので、中身を出さずに書類を見ることができます。

メモ帳は、裏台紙に滑り止めが付いているので、片手で書いても滑らず、安定感のある作りとなっています。

ご自身での使用はもちろん、プレゼントにいかがですか。

ご購入を希望される方は、直接日赤サービスまでお申込みください。
(お問い合わせ・ご注文は) 日赤サービス Tel 03-3437-7514
<http://www.nisseki-service.com/>
または



CroKuma クリアファイル
販売価格 100 円
(消費税込、送料別)

サイズ : A4 判
包装 : 1枚毎にPP袋で個別包装

すべらない CroKuma メモ帳
販売価格 150 円
(消費税込、送料別)

サイズ : B7 判
枚数 : 80 枚 方眼紙タイプ
包装 : 個別 PP 包装

